

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2026年4月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2026年4月15日～4月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 135社
- 回収率 67.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の4月の状況を見ると業況DIは、前月より9.5ポイント悪化の▲28.9となった。

2017年9月以来104ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3カ月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲32.6、当月と比べ3.7ポイント悪化が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2025年 11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2026年5月～ 2026年7月
業況	▲19.2	▲13.6	▲18.7	▲22.8	▲19.4	▲28.9	▲32.6
売上	▲4.8	▲6.4	▲3.9	▲12.2	▲7.7	▲10.3	▲10.4
採算	▲16.0	▲15.2	▲21.1	▲17.0	▲17.8	▲23.8	▲34.1
仕入単価	▲56.0	▲56.0	▲53.2	▲55.2	▲62.8	▲68.9	▲68.2
販売単価	26.4	20.8	26.5	26.8	27.1	30.4	37.8
従業員	35.2	32.0	34.3	35.0	37.2	30.4	28.9
資金繰り	▲12.8	▲15.2	▲14.9	▲15.4	▲14.7	▲16.3	▲20.0

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 11月	12月	2026年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 2026年5月～ 2026年7月
建設	▲34.5	▲35.7	▲34.5	▲27.6	▲24.2	▲40.0	▲46.7
製造	▲24.2	▲6.6	▲13.8	▲17.2	▲17.3	▲25.8	▲38.7
卸売	▲10.7	▲13.3	▲17.9	▲27.0	▲21.4	▲14.8	▲11.1
小売	▲17.6	▲26.7	▲35.3	▲25.0	▲44.4	▲33.4	▲47.6
サービス	▲4.6	13.7	4.0	▲17.4	▲4.0	▲30.8	▲19.3

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・ホルムズ海峡封鎖の影響により、石油関連資材(特にナフサ)の高騰及び納期の遅延、発注中止等の住宅関連の業況に悪化影響が出始めている。また舗装関連ではアスファルト合材の在庫枯渇し、大型工事受注の際、資材不足による工期の遅延や利益率の低下が懸念される。（総合工事） ・中東情勢や日銀の利上げ見送り観測に伴う円安でエネルギー・資材高が懸念される。採用難への対応で金増額を実施したが、建築費の高止まりで投資意欲は減退しており、業界環境は厳しい。実体経済を下支えする早急な補正予算の編成を切望する。（設備・その他） ・イラン情勢による製品出荷停止、価格上昇による影響が出ている。受注は確保しているが予算案件、資材確保等必要な状態。（建築業）
製造業	・期途中より価格改定が奏功し業況改善が認められたものの、中東情勢悪化から燃料、資材の高騰、供給制限や停止など不安定要素が大きくなり先行きは極めて不透明。現状が続くと業況はかなり悪化するのではないかとと思われる。（食料品） ・イラン情勢の悪化により各種資材調達に影響が出ている。塗料・接着剤・梱包資材等、あらゆる資材において入手困難な状況が加速している。（家具・木材） ・サビ止塗料が入荷の見通しがたたなくなり5月以降、製作分の塗装が出来ない。養生用のビニールの値上げ、シンナーの値上げ顕著。出荷の遅れも懸念される。（金属窯業他）
卸売業	・イラン情勢の影響もあり、出荷制限のある商品を含めてかなりの抱え込み需要があった。（繊維衣服等） ・国際情勢によって仕入原価の上昇が大変厳しいものがある。又異常気象により原材料の不足などで向こう3ヵ月の見通しがたたない状況。（食料品） ・中東情勢の影響により資材の入荷がなく納期がかかるなど問題が発生している。あわせて多くの商品が値上げしているため販売価格をあげて対応できるか不明。（機械鋼材） ・灯油の仕入値は小幅に上下を繰り返しているが、販売価格は現行のまましばらく続くと思われる。（その他）
小売業	・4月に入り雪も解け春らしくなってきたが、寒暖差が激しくなかなか春物商品を購入する来店客が少なく厳しい状況が続いている。顧客中心にSNSで新商品の情報を流しており、商品アプローチを行う。（衣服身回品） ・今月は非常に閑散とした状況となり、駅前周辺においても、人通りがほとんど見られない日があった。買物公園通りは集客につながるイベントや来街者を喚起する施策が見られず人出の増加に結びついていない状況。旭川駅前という立地で営業しているが、来店数の大幅な減少が確認された。（食料品） ・イラン情勢による混乱が販売や仕入れに大きく影響しており、思うように商品の入荷ができない。物価高騰による経費の増大を賄うだけの収益性改善が遅れている。（その他）
サービス業	・ホテルの老朽化に伴い、設備投資が増え、又メイクスタッフ等を含め人出不足が繁忙期に見込まれる。（ホテル・旅館） ・技術者不足を背景に人件費や外注費の上昇が続いており、採算の確保が課題となっている。官公庁業務では積算単価の改定が進む一方、民間案件では価格競争が依然として根強く、十分な赫々転嫁が難しい場面もみられる。（その他） ・4月より各料金設定や個別交渉等により値上げ改定を実施したが、それを上回る仕入原材料単価の上昇が予想され厳しい状況となるだろう。（整備業） ・諸物価高、とりわけ燃料価格についての不安が払拭できない。そのため資金の使い道としての設備更新投資が思うように進められない。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI4.2 ポイント改善、採算 DI11.4 ポイント改善、仕入単価 DI7.9 ポイント悪化、販売単価 DI2.4 ポイント改善、資金 DI0.6 ポイント悪化、従業員 DI11.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.8 ポイント悪化となった。業種別では、設備・その他 12 ポイント改善、総合工事 31 ポイント、建築業 29 ポイント悪化となった。中東情勢の悪化による燃料高騰・肥料原料になる尿素の仕入価格急騰で製造原価が上昇し、先行きが見通せないとの声も寄せられている。
製造業	売上 DI13.8 ポイント悪化、採算 DI0.7 ポイント改善、仕入単価 DI8.9 ポイント悪化、販売単価 DI14.5 ポイント改善、資金 DI0.4 ポイント改善、従業員 DI4.7 減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.5 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 14 ポイント、印刷・出版 10 ポイント改善、家具・木材 33 ポイント、金属窯業他 10 ポイント悪化となった。経費の見直し、生産性の向上により売上高増よりも利益増の傾向。向こう 3 ヶ月は昨年の人気商品の再販に期待との声も寄せられている。
卸売業	売上 DI10.6 ポイント改善、採算 DI4.1 ポイント悪化、仕入単価 DI2.2 ポイント悪化、販売単価 DI12.0 ポイント改善、資金 DI0.3 ポイント悪化、従業員 DI6.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 6.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、繊維・衣服等、機械鋼材横ばい、食料品、その他 14 ポイント改善となった。今年に入り 3 ヶ月が過ぎ全国的な相場の低迷から大都市は回復の兆しが見えているが、地方都市は依然として抜け出せない。特に手取賃金の低い都市は厳しい状況が今後も続く傾向にある。必需品となる月以外はとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI 横ばい、採算 DI3.9 ポイント悪化、仕入単価 DI11.1 ポイント悪化、販売単価 DI13.5 ポイント悪化、資金 DI10.3 ポイント改善、従業員 DI15.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 11.0 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品横ばい、衣料品 50 ポイント、その他 7 ポイント、自動車 25 ポイント改善となった。現状値上がりした商品数は前年よりも少ないが、中東情勢によるエネルギーコスト上昇の影響が今後出てくるとわれ、その値上げによる利益の圧迫、経費増が懸念されるとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI12.1 ポイント悪化、採算 DI34.8 ポイント悪化、仕入単価 DI0.9 ポイント悪化、販売単価 DI5.1 ポイント悪化、資金 DI15.0 ポイント悪化、従業員 DI2.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 34.8 ポイント悪化となった。業種別では、理美容・クリーニング 50 ポイント改善、その他横ばい、ホテル・旅館 53 ポイント、飲食 40 ポイント、整備業 75 ポイント、運送 25 ポイント悪化となった。今後も中東情勢の不透明感が続く場合、燃料費及び関連コストの高止まりが予想され、収益環境は引き続き厳しい見通し。航空便の供給制約が長期化した場合、インバウンド需要の回復ペースにも影響が出る可能性があるとの声も寄せられている。